と合するとか合せぬとかいふことを標準にして居る様である。かゝる方法によつてこんな問題を論ずるのは寧ろ愚な沙汰ではあまいか。どの道彼の如き英雄は一種窮屈な型の中に收め得べきものではない。從がつて其の行爲によつて信仰の正異などを論じ得るものではない。時には變通自在の方針も採れば行爲にも出でなければならぬ、それが正しい信仰に悖るものだとすれば頭からかゝる英雄の信仰の正否などを論ずるのが誤りである。されどもしその事業などを離れて帖木兒一個人として回教の信仰を持つて居たかと云へば勿論何人も然りと答へることを躊躇しないであらう。少くとも彼の法制、自傳を初めとして彼の傳記を書いたものによれば純然たる回教信仰者であつたことは爭ふ可き問題ではない。しかし彼の信仰の如何は思ふに其の傳記に於て甚だ重要なる位置を占めるものではあるまい。自分は寧ろ此の英雄がその生涯を通じて回教なるものを如何に利用したかといふことに注意して見たいのである。回教國民を統御する爲に回教の信仰を持ち、また之を保護奬勵する要のあることは勿論で、此の點に於て彼は充分の注意を怠つて居ない。そうして一旦異教徒に對する時には此の宗教の利用なることは彼にとつては甚だ重要なものであつたと思はれる、異教徒を改宗せしむるのは回教徒の任務で、此の爲に死すれば彼等は皆極樂淨土に行ける譯である。それで他國の征略に當つてはその征略者にこれ程都合の好い教はないのである。經典の文句を一度唱ふれば直ちに士心を纏めることが出來る。彼はこれが爲にその征伐の際には必らず聖典の說く所を種にするのであつた。例令ば支那を征伐する時に彼は部下を諭して次の如くいふて居る「神明の冥助により、吾等は亞細亞を平らげ、世界の大なる諸王を屈服させた、古來かゝる大なる領土、權勢、軍隊及び命令を司るものは稀れである。しかし今日に至る迄に我等の犯した罪は決して少々でないから、その罪亡ぼしの爲に善行を爲し、異教徒を擊